

災害と福祉のまちづくり2021

東日本大震災から10年 連続セミナー

災害が起こるたびに障害者、高齢者、女性、子ども、外国人など、マイノリティとされる人々へ被害が集中します。そして避難所は「第二の被災地」と言われ、改善されない仮設住宅、移動支援や復興事業へ当事者参加の機会の不足等の課題は繰り返されています。

災害から「命を守る」という当たり前のことが可能となる社会を実現するため、日本福祉のまちづくり学会、災害研究・支援委員会は、東日本大震災から10年の節目に「災害と福祉のまちづくり」と題して連続セミナーを開催します。

第1回目は東日本大震災の被災地から、当事者目線からこの10年を2回に分けて振り返り、今後の福祉のまちづくりの方向性について議論します。[（オンライン開催・文字通訳あります）](#)

【主催】日本福祉のまちづくり学会 災害研究・支援委員会

【共催】大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター「障害ラボ」

【後援】公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団（予定）

【Part1】地震・津波の被災地（岩手県・宮城県）から

日時：2021年3月7日（日）13:30-16:00

基調講演：

「福祉のまちづくり・仙台におけるインクルーシブ防災の取り組み
—当事者も地域も変わるまちづくりへ—

阿部一彦氏（日本身体障害者団体連合会会長・東北福祉大学教授）

基調報告：

①「被災地の当事者からみた福祉のまちづくりの課題

—東日本大震災当日の状況と仮設住宅・災害公営住宅について—

高橋智氏（全国脊髄損傷者連合会岩手県支部 前支部長）

②「移動支援から見える被災地の復興と課題」

村島弘子氏（NPO法人 移動支援Rera）

【Part2】地震・津波・原発事故 複合災害の被災地（福島県）から

日時：2021年3月21日（日）13:30-16:00

基調報告：

①「震災と原発事故をあわせて『震災』という福島県民の不思議」

長谷川 秀雄氏（NPO法人いわき自立生活センター・みんぷく理事長）

②「あの日の南相馬とフクシマの未来」

青田 由幸氏（NPO法人さぽーとセンターぴあ 代表理事）

【参加費】学会員・学生・大阪大学・講演者関係者 無料

一般参加者（上記以外の方） 1000円/回（両日参加できます）

【参加方法】

下記のURLの申し込みフォームから申し込みください。後日参加URLを送付します。

<https://eventregist.com/e/ru4GJDAbdjiK>

【問い合わせ】

大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター

石塚裕子 (y-ishizuka(アットマーク)hus.osaka-u.ac.jp)



今後のセミナー予定

第2回（2021年6月頃）（仮題）水害から「命を守る」

第3回（2021年9月頃）（仮題）原子力災害とマイノリティ

第4回（2021年11月頃）（仮題）災害の新たな課題への備え（大規模停電・新型コロナウイルス等）

第5回（2022年3月頃）（仮題）誰もが助かる社会に向けて

